

# ジェンダーの視点から 「少女マンガ」を読み解く!

女性だけではなく男性も楽しめる少女マンガを人生の参考書としてどう読み解いていくか、また、その時代の背景や何を伝えたいのかなど、たくさんの作品を通して学ぶことができました。アンケートでも大好評で、参加者の方はトミヤマ先生の講演を楽しまれたようです。

講師



トミヤマユキコさん

ライター／マンガ研究者  
白百合女子大学 人間総合学部 准教授

日時 9/27 土

13:25~15:00

場所

松山市男女共同参画推進センター  
コムズ5階・大会議室

## 女性の人生は非リニア

女性は、進学・就職・結婚・出産・介護など人生の分岐点において何かを辞める・辞めざるを得ないことが多く、男性よりリニア(直線)で人生を進みづらい傾向にあります。

そんな時に人生のロールモデルがいてくれると助かるけれど、さまざまな分岐パターンがあるゆえに身近な人で見つけにくいのが実情です。そこで参考になるのが女子マンガです。

## 女子マンガは人生の参考書

少女マンガは少女だけが読むものではなく、青年女性が主人公のものもあるので“女子マンガ”と称しています。最近の女子マンガは作者の想像だけではなく、しっかりした取材の下で描かれていることが多いので、参考にできるリアリティがあります。身近にロールモデルがないのなら、フィクションの中で探すのもよいのではないのでしょうか。作品点数もかなりありますし、男性にもおすすめです。

## トミヤマ先生の人生の参考書

「ハッピー・マニア(安野モヨコ著)」が人生の参考書です。通常はラブコメとして捉えることが多いかもしれないけれど、お仕事マンガとして読むと面白く、勇気がもらえました。

主人公は明治大学を出ていますがフリーターです。おそらく就職氷河期の煽りを受けてしまったことが読み取れます。強烈な恋愛至上主義の彼女。頑張ってもどうにもならない時代に仕事を転々としながら大好きな恋愛を謳歌するのも一つのやり方だったのかもしれない。

## 男性の世界もなかなか奇烈

ルッキズムと言えば、どちらかという女性容姿について注目されているイメージですが、男性のルッキズムも存在します。

例えば、飲み会の場で容姿いじりが始まると、いじられてもいかに道化を演じてその場を乗り切るか、そして周りに笑ってもらえたら勝ちという、難しい世界を生きているのです。

## 議論の資料としての女子マンガ

ジェンダーやルッキズムの問題について議論するのにマンガは向いています。小説は読者の想像に委ねる部分が多く、ドラマは実在の人物が演じるので議論には適しません。マンガは登場人物が実在せず、共通認識の下、比較的安全に議論を進めることができます。



講演の様子



質問タイム



## 参加者の感想

10代

初めてこのような会に参加しました。難しい話についてお勉強する集まりというイメージが強かったのですが、マンガということもあり、気になって来てみたらビックリするくらいわかりやすく面白かったです！ありがとうございました。

20代  
女性

今まで少女マンガに触れる機会の方が多かったのですが、今回の先生のお話を聞いて女子マンガも読んでみたいと思いました。読み方で面白さが変わり、より味わい深くなるということを楽しいお話とともに知れて、とてもよい時間を過ごすことができました。

30代  
女性

様々な視点から、色んな漫画を紹介してもらえたことはもちろん、先生ご自身のお人柄、生き方が型にはまらずとても楽しかった。

40代  
男性

リーディングリストなどがあってよかった。マンガと共感性などいろいろ考えさせられた。

50代  
女性

あらゆる方向性の話が聞けました。テンポよくあきることなく話を聞くことができ、とても有意義な時間となりました。

60代  
男性

トミヤマユキコ先生、今回、よく松山に来てくれたもんだ。  
トーク力がすばらしい素敵な先生でした。  
参考になりました。

70代  
以上  
女性

マンガと一言に片付けられないなと思った。  
働く女性という視点もよかった。

トミヤマ先生ありがとうございました！

Thank you

